

○議長（小川 廣康君） 14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） ひとつ、ぜひ取り組んでもらいたいと思います。

それと、厳原市街地の観光でございますけど、これには、「ぶらり厳原」このパンフレットには、ガイドにある清水山城、先ほど船越議員さんのほうからも質問がありましたけど、清水山城に登り口がはっきりせんような感じもいたしますので、それと、今、八幡様のところから上がるルートと、今、博物館つくろうというあそこから上がるルートと2つあると思います。そこをやっぱりわかりやすく、三の丸まではある程度の年齢の人も上がられると思いますけど、一の丸までは高齢者はちょっと無理かと思っておりますけど、そのこのところをこう緩やかに急なところは手すりでもつけてやるとか、そういうふうなことでひとつお願いをしたいと思っております。

このガイドの活用方法は、今聞きましたけど、なかなか邦人が利用しているということがございますので、ぜひこれを大きくして、やっぱり観光客が対馬に来島できるような整備をお願いしたいと思います。

私の質問は以上でございます。もうあとは春田議員に任せたいと思っておりますので、よろしく願います。どうもありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） 新政会、4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 皆さん、こんにちは。大変こう、私たちの会派80分ということで、12時を昼の時間を過ぎますが、私の持ち時間で時間いっぱい使わせていただきます。新政会の春田新一でございます。今回は、会派代表質問の関連ということで、ここに立たせていただいております。市長、答弁は自席から結構ですので、時間がありませんので、答弁は読み上げなくて結構でございます。よろしく願いいたします。

韓国の観光客が対馬來訪最多ペースということで、新聞報道がなされております。ことし1月から9月までの入国者数は27万4,612名ということで、前年度同期より49%の伸び率になっているというような報道がなされております。今年度、年度末までは30万人を超えるペースであろうかというふうに思っております。その中で、この観光客の資源の整備と方針計画についてお尋ねをするわけでありますが、先ほどから会長の質問にもありました。また、初村議員の質問にもありました。同僚の議員の質問で答えが一緒になるときは、割愛されて結構でございます。

私は、特に、北の玄関口、比田勝港からの北部ルートの整備ということで、今回はやらせていただきますが、時間が限られておりますので、進めさせていただきます。

市長も御存じのように、比田勝港から戸ノ崎、三宇田、あるいは今度は韓国展望所、鰐浦、それを過ぎていって、先ほど山本代表も申しあげましたように、千俵蒔、御嶽というようなルートが北部では考えられるわけですが、先ほど市長の心ある答弁を私はちょっと聞いておりました。

御嶽で自分が体験をして登ってみて、悪いところは整備の方向を立てますということですから、本当にいいことだなというふうに思っております。私も後から述べますが、白嶽に15年間登り続けております。やはり山に登る愛着ができれば、その山は好きになるわけであります。そういうことで、やはり登っていただいて、どこが悪いのか、これを確認して整備、本当にいろいろな国有林とかそういうところがございますので、大きな手をかけられないと思います。ここは滑りそうなところだなというところに木柵の階段を二、三個つけるとか、そういうような感じの整備で私はいいいと思います。そうしないと、コンクリートとかそういうものを持っていきますと、やっぱり自然を崩壊しますので、そこら辺でとめていただいて、登山客、トレッキングコースの皆さん方はわかってもらえるというふうに、私は山を今まで登り続けて、感じております。そこはそこで結構だと思います。そういうようなことで、今は白嶽の話をしましたが、我々の北部のこのルート、非常に、先ほども出ていましたホテル等も建設をされて、どんどん受け入れ体制は整っているわけですが、観光客が一泊をしたいなというようなおもてなしができていないのが現状であります。非常にこう、上対馬ではいろいろな民間の事業者が入ってこられて、やっておられます。非常に感謝を申し上げるところであります。ここに行政としてどういうことを手を差し伸べれば一泊してもらえるのか、そういうことが今からは方向、計画というのになってくるんではないかなというふうに思います。もう少し遅いふうになっておりますが、そこら辺を随時考えられてやっていただきたい。今、鱒浦展望台も展望所に行く道路も改良がなされております。これも片側ということで、バスの利用ができないというような状況で、今改良がなされているわけがございます。この改良がなされれば、また観光客もそこには多く訪れることができます。非常にそういうようなところの整備というのは大事なことであって、どこもそうなんです、御嶽もそうなんです。やはり観光バスで行く、登山口まで行く道路と駐車場、ここら辺もやはりどこの登山口、トレッキングコースを見てみますと、やはり駐車場、そこまで行く道路の整備が余りこう進んでないような状況であります。これはそもそも、このような観光客が多く訪れてきたわけですから、仕方ないかなというふうには思っておりますが、やはりここら辺をきちんと整備をしていって、観光客を呼び込む、または一泊ができるルートづくりというのが一番、今、行政、我々もそうなんです、課せられているところじゃないかなというふうに思います。しかしながら、行政だけにこれを押しつけるんじゃなくて、やっぱり民間団体、そういうのも協力しながら、一緒にやっていく方向性も出していきたいというふうに、私は今感じているところでございます。

それと、まず忘れないうちに、市長の答弁の中で、山本代表の質問で答弁がございました。一番この関心があります、比田勝一博多間のジェットfoil混乗の問題でございます。私たちもこう市民と触れ合う、話すときには、必ずこれは出てくるわけでございます。「いつごろになり

ますか」「どうなっていますか」というような話はいつでも出てきます。しかし、これには我々も今までは、いつごろというのは答えることはできませんでした。しかし、「行政としても、議会としても、一生懸命取り組んでおります」という言葉しかかけられませんでした。しかし、先ほどの答弁を聞いてみますと、かなり進んだなというような、今、私はそういうような聞き取り方をしました。本当に悲願であります混乗のこの問題、厳しい問題でありました。C I Qの問題、税関の問題、高いハードルと厚い壁を乗り越えてここまで来たことは、本当に頭が下がる思いでございます。これも、秋野先生も一生懸命力を注いでここまで来たんじゃないかなというふうに、私は今感じております。そういうことで、もう一步というところまで来ましたので、ぜひぜひこれを就航させていただきたい。そのことについて、一答、答弁を市長のほうから願いたい。私の今察するところでは、今年度はちょっと無理かな、来年度4月ぐらいにはめどが立つんじゃないかなというようなところまで聞き取ったわけでありますので、そこら辺の答弁をお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この混乗についての進捗ということでよろしいでしょうか。はい。このことにつきましては、先ほど、春田議員のほうからもお話がありましたように、秋野先生のほうからもいろいろな調整をしていただきまして、現在、国交省の内航課というところがそういった調整をしておりますけれども、ここのほうはもう大方できております。その考え方でいいですよというような話を聞いております。そして、C I Qのほうももう大体、皆さん、方向性は了解しましたということございまして、今現在進めておりますのは、九州郵船とJ R九州との調整でございます。あくまでも今の比田勝と博多を結ぶ航路は国内線でございます、ここに今、補助航路が走っていると、九州郵船の補助航路が走っていると。この九州郵船の補助航路を存続させたまま国際線に混乗させるためには、どうしても九州郵船とJ R九州さんが用船契約ということで、J R九州のビートルが比田勝から博多の間は九州郵船の航路の中で走っていくということになりますので、このことについての今最終的な詰めの協議を進めているところでございます。これがまた調停が成立いたしますと、すぐさま国交省のほうに対しての申請を上げてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 大体わかってきました。そういうことで、一日も早い就航を目指して、皆さん一緒に取り組んでいきたい。この船が就航することができたならば、我々地元としても、北部全体を絡んだ中で、この船に乗るといような形のいろいろな動きをしていかなければいけないのかなというふうにも、私は感じております。いろんな団体を通じながら、そういう

ような方面にも出向いていかなければいけないのかなというふうにも思っておりますので、ぜひぜひ、ここまで来ましたので、一日も早い就航をよろしく願いをいたします。

それから、この北部ルートにまた戻りますが、今、戸ノ崎はもちろん、三宇田、それからこの三宇田のソモヤには今度ホテルが建設予定、来年ごろには着手できるじゃないかというような話は聞き及んでおりますが、やはり、そこを通り過ぎて、今度は舌崎、泉地内になるわけですが、この舌崎を有効に使った観光というのが、私は今考えられるのではないかなというふうに、北部では考えております。その中で少しの動きはあっているようにありますが、やはり地主さんの多くいらっしゃる中で、大変厳しい状況になってくるのではないかなというふうに思いますが、やはりここをこのまま野放しにというわけには、私はこれだけの観光客が来てくださるのに、ちょっともったいないなという気もいたしております。ここで、民間の事業者が、もしいろいろな観光に向けた施策を打ち上げてやられるのであれば、行政として、市長として、手助けといたしますか、補助金とかそういうのじゃなくて、手助けができる部分を手助けできるかどうか、ひとつ答弁をお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 舌崎の開発ということでよろしいのでしょうか。舌崎はたしか、もともとはあそこに牛等を追い込んだ牧場として利用をされていたかというふうに思っております。その中で、以前、旧上対馬町時代にもあそこをゴルフ場にしてはどうかといったような開発計画もありました。ただ、その後また、この合併してから、あそこをいろんなレジャー施設として開発するといったような構想も我々も聞いてはおりますけども、まだ実現には至っていないというところがございます。そういう関係で、市のほうとしてお手伝いできる場所があれば、お手伝いすることについては何ら異存はないというふうに考えております。ただ、国定公園の問題とか、いろんなクリアしなければならない多くの問題はあろうかというふうに考えております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 今の市長の考え方、よくわかりました。非常に、この今の舌崎の件ですが、やはりもともと、そういうような、市長の今答弁述べられたようなことが計画をされていた。しかし、それが実行に移ることはできなかったというような答弁であります。また、その国定公園の中で、私が今ちょっと考えたのが、民間の事業者がそれをやられるのであれば、国定公園の縛りがある中で、行政がかかわってこられる部分についてお願いをしたいなど、そういうことですので、また、それはそれで、ゆっくりと質問をさせていただきたいと思っております。

それから、今、比田勝のほうでは、国際ターミナルの斜め前ぐらいに辻馬車という、皆さん思

い出していただければわかるんですが、湯布院を思い出していただければわかるんですが、馬車が今、営業されております。馬の太さが800キロぐらいの太さで、10人乗りの馬車を後ろに背負って、40分のコースということで、今、比田勝商店街の中を通り抜けて、国内ターミナル、網代まで行くコース、それから国際ターミナルに戻ってくるコースで40分、それで料金も制定をされて、今営業をされております。非常に、町並みとして、写真を私は撮っていますが、大変すばらしいなということで、これだけ民間の業者が動き出していただくんでありますから、我々、地域住民としても、また行政としても、かかわられることはかかわっていかねばいけないのかな、そうしていった観光客を呼び寄せるメニューづくりというのも大事じゃないかなというふうに、私は考えているところでございます。それを、補助金をどうのこうのじゃなくて、民間ができる、一生懸命やっていることに対して、声をかけたり、そういうことができる気持ちになっていただきたい。そういう考えでおりますので、また今後とも御指導、御協力を賜りたいというふうに思っております。

それから、北部のルートでこの御嶽は、先ほど山本会長のほうから話がありました。市長が登ってみて、どこをどうされるかは、また私も見て届けたいというふうに、御嶽にも私は登っておりますので、よくわかっております。

それから今度は、千俵蒔の問題が出ましたが、その千俵蒔、私も一回質問しました。大浦議員も質問をされました。非常にこう、千俵蒔まで行く道路、ここを井口浜から千俵蒔まで行く道路を、観光バスが通れる道路整備というのを、ひとつ、ここはお願いをしたいというふうに思っています。答弁は前々回のときに聞いておりますので、そこを今検討中だろうというふうに思っておりますので、先に進めていただいて、山本会長も申し上げましたように、この後世に残す山の野焼き、そういうものを見ていただくために、下までバスが行く道路を整備していただきたいな。長くかかるかはどうかわかりませんが、そこら辺を頭に十分置かれて、取り組んでいただきたいというふうに思います。

それから、御嶽については、今言いましたように、一回登って経験してから判断しますということですから、もう本当に結構なことだと思います。よろしく願いいたします。

それから、今度は中部のほうに行きます。中部のほうで、烏帽子岳、神話の里、道路やサイクリング道路として整備はされているのかな、されてないのかな、どうなのかなというのは、観光客の皆さんが判断をしてもらえるというふうに思っておりますが、パールドーム、和多都美神社、神話の里、そこから烏帽子岳というふうになるんですが、非常にこう烏帽子岳に登って帰るといのが厳しいような交通状況であります。この交通状況が厳しいということになれば、バスが行けないわけですから、観光客も行きたいでも、そこはルート飛ばしますよというようなことになってくるのではないかなというふうに思っておりますので、やはりこれも思い切った施策を発動され

て、烏帽子岳から糸瀬への道路の新設をさせていただいて、そこからおりるルートと上るルートと
というような感じの計画も必要じゃないかなというふうに思っております。非常に道路が狭いで条
件が悪い、観光道路としては悪い条件の中で、今、一生懸命に観光客が足を運んでくださってい
るわけですから、これにやはり何かを返していかなければいけない。そうすることは、今の道路
を改良というわけには難しいところもありましようから、やはり一本、糸瀬のほうに抜ける道をつ
くっていただければ、その住民の皆さんも通って行ける、これも少しは解消できるわけです
から、生活道路としても大事なところになってきますので、そこら辺も十分協議をされて計画を
させていただきたいなというふうに思っております。

それから、この浅茅湾になりますが、私はこの浅茅湾、非常に自然豊かで、船で回れば、今の
紅葉の時期にはすばらしい景色だなというふうに思っております。ここには、予算を入れるわけ
でも何でも無い、自然をただ、海に向かって、海を渡って自然を眺めていく、こういうようなと
ころだろうというふうに思います。非常に眺めも良いところです。それに今度はシーカヤックと
かそういうものについては、その愛好者がやっているわけですが、やはり我々として、地
元として、また行政として、見せる観光であるならば、船を、今の渡海船との同時計画といいま
すか、そういうものも盛り込んだやはり計画が、もう少し必要じゃないかなというふうに私は思
っているところでございます。そこら辺も今後の検討課題であろうというふうに思っております。

次に、時間がないので余りゆっくり質問できないわけですが、美津島の南部中央、自然と景観
ですね。トレッキング登山では、九州百名山、白く輝く霊峰とも言われております白嶽、
519メートル、山頂付近では上見坂展望台や万関橋などの観光地、また対馬空港からもその姿
を見ることができる。白い、今は本当に白い姿を見せております。すばらしい景色だというふう
に私は思っております。日見林道からも、きれいな真っ白の岩肌がきれいに見えるわけでありま
す。非常にいいところであります。そこに、その道路から眺めるのもまたはいいでしょう、しか
し、ああ、登ってみたいなという気持ちにさせる、この魅力ある観光地というのもつくってい
かなければいけないであろう。洲藻から私はいつも登るんですが、洲藻に何年か前、大型バスの駐
車場、それとトイレ、トイレもきれいなトイレが完備されております。ここに大型バスは何台か、
とめられるわけですが、それから先は林道か農道か、よく私も調べていませんが、行けば
砂利道もあります。行けば登山口に行くわけです。登山口のところに駐車、乗用車、軽トラ、四、
五台はとめられるスペースは、今現在、確保されております。これもちょっと急なところであり
まして、砂利道でもありますし、きれいな乗用車で行けるのかなというのも、一回登られた人の
考えになるのではないかなというふうに私は思っているんですが、やはりそこを大きく広くじゃ
なくて、乗用車が底がつかえない程度の整備というのは大事じゃないかなというふうに思ってお
ります。これもいろいろと難しい問題は出てくるわけですが、そこら辺を少しずつ整備をされて

いくのが、やっぱり見せる観光であろう。または、対馬市の取り組みはいい取り組みだといって褒められるのも、観光客らの意見だろうというふうに思っておりますので、やっぱりそこら辺をもう少し全体で考えてやっていただきたいなというふうに思っております。

それから、看板については7カ所、きれいな看板が今設置をされております。しかし、この看板で、私はもうわかるんですが、わからない人もいらっしゃると思います。矢印とかそういうのも、もう少し、間には要るんじゃないかな。距離的看板があるのがありますので、そこら辺に矢印等々が要るのではないかなというふうにも感じているところでございます。

それから、この休憩所、もともとは15年前にはきれいなベンチがあったわけですが、今はコンクリート製品はなるべく使わないでやっておられますので、間伐材のベンチでありますので、やはり長くはもてないわけですね。非常に今もう形が崩れた状態でそのままになっているところが、二、三あります。そこら辺も非常に道路状況の悪い中で整備をするのも大変かと思いますが、最低限のやっぱり修理はしていただきたいなというふうに思っております。

それから、鳥居を越えて登っていくわけですが、本当にいい眺めですばらしいところでございます。皆さんも一回登って、そうだ、春田議員が言っていたとおりでなというふうに感じていただければ幸いに思うところでございます。また、私も年明けの2日にはそこに登りたいというふうに思っております。市長、その白嶽の件で、今私が言いました、駐車場から登山口までの、キロ数はちょっと把握はしておりませんが、余り長くはありませんけど、その砂利道の間等々の整備というのは、どういうふうに考えられますか。そこをひとつと、そこにたどり着いた駐車場の整備。駐車場もこう山なりになっていますので、斜めになっているんですね。女性の方の運転はちょっとUターンするのは厳しいような状況でありますので、そこを少し整備していただければなというふうに私は感じているわけですが、市長の考えとして、観光部長のほうの考えでもいいですが、どうぞ。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も白嶽のほうには登った経験はもちろんあるんですけども、確かに駐車場から登山口のところまでの道は、その当時もかなり傷んだような状況でございました。ただ、そこが今、林道になっているのか、どういった作業道になっているのか、そこら辺の状況も今ちょっと私も把握しておりません。そういうことで、できたら観光商工部長のほうに答弁をしてもらおうと思います。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、俵輝孝君。

○観光交流商工部長（俵 輝孝君） 洲藻のバスの駐車場から登山口まで、多分、林道というふうに私は認識をしております。穴があいて、なかなか乗用車が行きづらい。ほとんど、以前は軽トラしか行ってないような場所だったので、最近の利用は余り、乗用車は行っているということ

で、話は伺っておりますので、農林部、それから建設部のほうと協議をしながら、確認をさせていただきたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 時間がもう2分しかありませんので、簡潔にしますが、今、市長のほうからもありました。もう一回調べて、よく調べて、できるものなら少しずつでも整備をしていくという方向でありますので、計画はわかりました。そういうふうにして、少しずつでも、この財政の厳しい中ですから、一遍にはできませんので、少しずつ、観光客の皆さんのおもてなしになる、心あることを考えて、少しずつやっていただきたいというふうに思っております。

それから、最後に、教育長、その中にある文化財、今の観光ルートの中と、またはトレッキングコースの中、登山の中にある文化財、そういうものについて、どのように把握をされて、教育長の考え方として整備はしなくてもちゃんと見れますよというようなところになっているのかどうかを、所見を少し聞かせてください。ちょっと難しいですね。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 教育委員会としましては、いろんな文化財の整備保存を進めていくと。その文化財がある場所までのいろんな道路の整備であるとかを、市長部局と連携をしながら進めていくというスタイルで進んでおります。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 文化財、今先ほどからあっておりますように、世界記憶遺産も登録をされました。これで韓国の観光客、あるいは日本の観光客がどのくらい押し寄せてくるのかなというのも、行政の今からのやり方だというふうに考えております。一緒にやって、これをやっていって、「見せる対馬」にしていかなければこの島の宝が存在できないというふうに思っております。また、同僚議員のほうからもありましたように、やはり子供たちに後世につなげる文化財の保存というのも大事であろうというふうに思っておりますので、教育長、この文化財について、手を入れてやる文化財じゃなくて、見せる文化財で自然的にやっていくというふうな形で、よろしく願いをいたします。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、新政会の会派代表質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩とします。

再開は午後1時20分からといたします。

午後0時20分休憩